文部科学省　2019年度　専修学校による地域産業中核的人材養成事業

「モノづくり産業におけるイノベーティブ産業人材教育プログラム開発事業」

能力評価指標・基本設計書

（改訂版）

記：2019年10月2日・第二回実施委員会において本教育プログラム“一年制・研究課程”について「リカレント教育」の方針が示された。

従って、社会人の“学び直し”が主対象となる為、よりイノベーティブ実践力を強化する必要性から新たに【共通領域】PBLイノベーション構想を新科目として加える。

2020年2月

JIHDO 公益財団法人 国際人財開発機構
Japan International Human capital Development Organization

本報告書は、文部科学省の委託事業として、公益財団法人 国際人財開発機構が実施した
2019年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

目次

1、事業の内容　P4

（1）事業の主旨・目的等について

①事業の主旨・目的

②学習ターゲット、目指すべき人材像

（2）当該教育カリキュラム・プログラムが必要な背景についてP5

①モノづくり中小零細企業の状況

②IoTやAIがもたらすイノベーション

③モノづくり中小零細企業の成長性とそれに求められる人材

④専修学校によるSociety 5.0に対応したモノづくり中小企業の人材育成

2、スキル標準調査結果の反映　P9

（1）能力評価指標構成 P10

（2）イノベーティブ産業人材・コンピテンシー対応表P11

（4） 能力評価指標構成 P12-13

3、イノベーティブ産業人材・能力評価指標

（1） 能力評価指標

（2） 細目ユニット P15-P60

4、能力評価手法　P61

（1） イノベーティブ産業人材・能力評価指標対応表P62

（2） 個別・能力評価構造 P63

（3） 評価手法・評価基準 P65

1、事業の内容

（1）事業の主旨・目的等について

①事業の主旨・目的

戦後に日本の経済成長に大いに貢献した自動車産業、電気電子産業などの製造業は、完成品を設計・販売する大手中堅企業の下には何重もの下請の企業が連なり、ピラミッド型の産業集積を形成していた。その中で中小零細企業は、創意工夫を重ねて技術を進化させ国内外で高い評価を受ける製品を市場に送り出し、経済成長に大いに貢献した。

しかし、グローバル化の進展により、大手企業が下請けを海外企業にシフトしたことから、中小零細企業は衰退の一途を辿っている。 この状況を打開するためには、中小零細企業自身が下請け体質からの脱却に向けて、新たな取組みを始めなければならない。

AIやIoT等の技術により大きな変化を迎え始めている現代社会の中で、モノづくり業界の中小零細企業の持つ技術と市場のニーズにマッチした製品やサービスの開発に繋がれば、イノベーションを起こす可能性は十分ある。本事業では、この企業の技術・ノウハウと市場のニーズをマッチさせる人材をモノづくり産業におけるイノベーティブ　産業人材と定義し、これを育成する教育プログラムを開発する。

これにより、モノづくり業界の中小零細企業の再興・発展に寄与する。

②学習ターゲット

募集人材像：

地域の社会人を主対象とした“学び直し”「リカレント教育」に賛同する地域の企業経営者の推薦者。

又、高等学校卒業者以上で、専修学校等で技術系あるいはビジネス系を専攻したあるいは卒業見込み者、または実務経験者

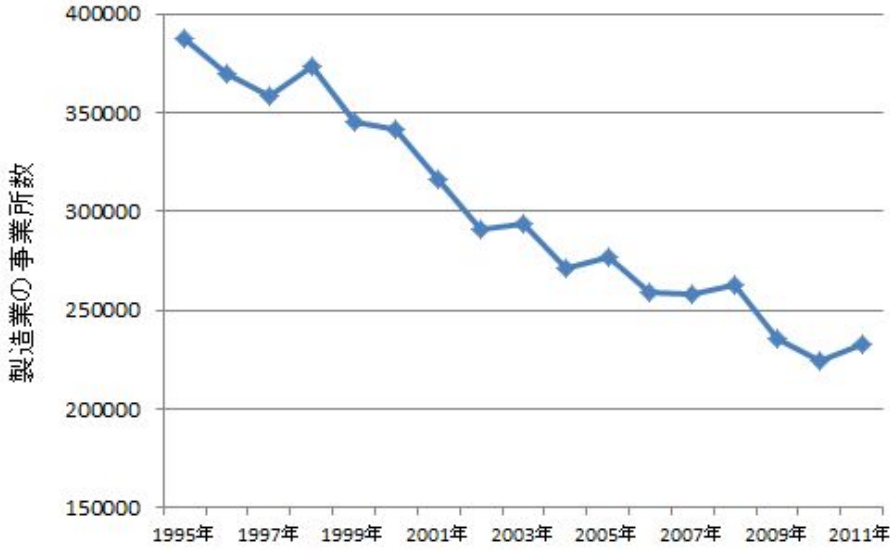
③養成目標人材像：

IoTやAIなどのイノベーション・ツールを駆使しながら、社会課題の中に潜んでいるニーズを拾い、それに答えるために情報収集、プロジェクト・チーム結成をし、推進することができる人材。

(2) 当該教育カリキュラム・プログラムが必要な背景について

①モノづくり中小零細企業の状況戦後の日本の経済成長に大いに貢献した自動車産業、電気電子産業などの製造業は、完成品を設計・販売する大手中堅企業の下には何重も下請の企業が連なり、見事なピラミッド型の産業集積を形成していていた。その環境下では、中小零細企業は大手中堅企業からの依頼を受けて、部品提供の下請け企業としての役割に徹していた。

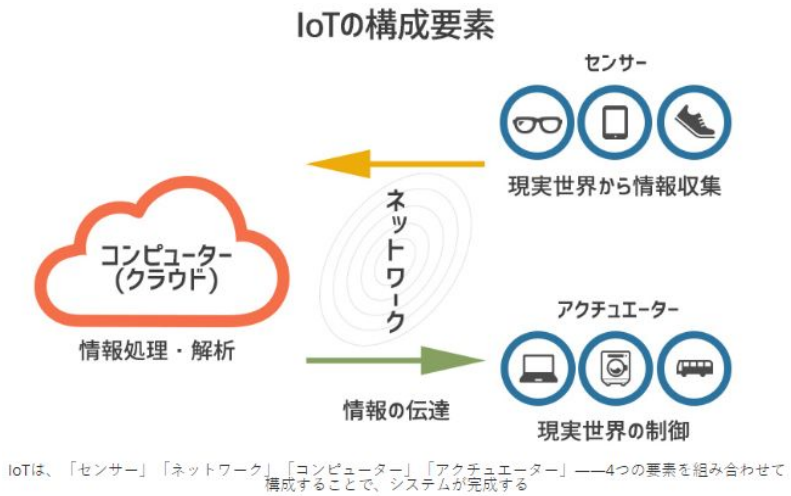
しかし、近年の大手中堅企業は、グローバル化が進むにつれて、海外メーカーとの競争を勝ち取るために、下請けの発注先を人件費の安価な発展途上国の企業へと大きくシフトした。その結果、国内の中小零細企業の仕事は減少し、多くの中小零細企業が廃業に追い込まれていった(下図)。現在生き残っている企業も安泰ではなく、今請けている仕事がいつ海外にシフトされるか分からない不安に晒されている。多くの中小零細企業は製造に関わるノウハウや技術を持っていても、顧客を大手中堅企業に絞っていたために、大手中堅企業からの発注が途絶えても、有効な対応策を取ることができない場合が多く、国内の小規模な製造業企業は衰退の一途である。すなわち、中小零細企業が下請け体質を脱却できないことが大きな課題である。



※図1:中小企業白書2014年度版　付属統計資料より

②IoTやAIがもたらすイノベーションは今、世界的に新たな時代へと着実に歩みを進めている。　IoT技術によって全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、多種多様な新たな価値が生み出されている。また、　AI技術により、多くの情報を分析するなどの面倒な作業から解放され、ロボットや自動運転車などの支援により、人の可能性が広がる社会が実現されようとしている。
例えば、タクシー業界に激震をもたらした Uberのサービスがある。従来のタクシーは、利用料が高額であるにもかかわらず、いつ来るか分からない上、ルートによっては料金が変わるので不安がある。ここに着目したのが　Uberである。Uberは車を持っている民間人のドライバーと車で移動したいユーザーとを、ネットを通じて繋げるサービスである。画面上にドライバーの連絡先、待ち時間と利用料を明記することで、乗る客の不安を解消させる一方、利用客からのリクエストは画面越しで来るため、ドライバーはわざわざ集客する必要もない。Uberのサービスがユーザーのニーズをストレートに捉え、世界的に流行し、短期のうちに世界的な企業へと成長した。

また、AIを活用して単純作業を軽減した事例では、画像認識の応用技術がある。これまで紙媒体をもとに手動でデータを入力する必要があった場面で、紙媒体のデータをスキャンして取込めばAIが自動的にデータ入力や分析をしてくれる技術が実用化された。この技術は既に銀行、保険などの業界で導入されており、大幅な人件費削減に貢献している。



※図2：IoT Todayのホームページより

③モノづくり中小零細企業の成長性とそれに求められる人材は常に時代に合ったモノやサービスを提供しなければならない。時代の変化に対応できない企業は淘汰されていくのは自然界と同様である。人間の社会が狩猟から農業、工業そして情報社会に進化してきたが、これからはIoTやAIの最先端技術により、さらなる変化を迎えようとしている。この変化は、モノづくりの中小零細企業にとっては大きなチャンスとして捉えることができる。これまでのモノづくり業界では、新たな取組みを試みるために、先行投資として機械設備への莫大な投資が必要であった。すなわち、より大きな投資を行うことができる大手中堅企業が強者で、中小零細企業が弱者であり、この力のバランスは到底覆すことができないものであった。しかし、 IoTやAIというイノベーションをもたらしうるツールの出現により、これらのツールをうまく活用することができれば、小規模な企業でも、世界的な企業に成長できる時代が到来した。

しかし、中小零細企業がこのチャンスをつかむためには条件がある。中小零細企業はこれまでのように、大手中堅企業の発注に依存するいわゆる下請け体質を、自ら変えていかなければならない。前項で取り上げた Uberの事例のように、社会の課題＝ユーザーのニーズを発見し、それを解決する製品やサービスの企画・研究開発・提供ができる体制を作ることが、中小零細企業の成長への必要条件だと言える。そして、その体制の要は人材であることを言うまでもない。

中小零細企業がイノベーションを生み出すには、まず社会に対してアンテナを張って、課題を発見し、その課題にくすぶるニーズを把握することから始まる。そして、課題解決した状態はどのような状態が望ましいか、その状態を作り出すために何が必要で、どうすべきかを判断する。それを実現するためにプロジェクト・チームを組織し、チームワークで取り組んでいく。このプロセスの中に、IoTやAIのようなイノベーション・ツールを駆使することがイノベーションを生み出すための前提となる。

従って、これからの時代に中小零細企業に求められる人材は、①モノづくりに関する技術や知識を持ち、②マーケティング等のビジネスに関する知識を併せ持って、③ IoTやAIなどのツールを駆使しながら、④多くの人の力を集結させてプロジェクトを推進することができる人材であると考えられる。

④専修学校によるSociety 5.0に対応したモノづくり中小企業の人材育成専修学校は産業界とは密な関係を持ち、これまで企業での即戦力となる人材を輩出してきた。そのため、前項で述べたような人材を育成するためには専修学校が最適な場であると考える。そこで本事業では、 ビジネスとモノづくり技術の知見を持ち、 IoTやAIなどのイノベーション・ツールを活用してプロジェクトを推進できる人材を育成することを目的とした 1年制の専門学校研究課程で運用する教育プログラムを開発する。

本プログラムの受講者は、主として地域企業経営者の推薦者の “学び直し”「リカレント教育」を主体に、また、専修学校等で技術系あるいはビジネス系を専攻した人または卒業見込者や、それに関する実務経験を持つ社会人も対象として想定する。すなわち、受講生が一定以上の水準の専門知識・技術を入学時点で有しているものとして、本プログラムを実施する。

本プログラムではまず、前提知識のレベル合わせを行うために、モノづくり技術に関する知見を持つ受講者は、ビジネス分野の基礎知識を学習する。一方、ビジネス分野に知見を持つ受講者は、モノづくり技術の基本的な知識や技術について学習を行う。一方、ビジネス分野に知見を持つ受講者は、モノづくり技術の基本的な知識や技術について学習を行う。

その上で、IoTやAIなどのイノベーション・ツールに関する知識を、適用事例を交えながら学習する。併せて、様々な業務を行う上で共通的に必要とされるコンピテンシー（＝業務遂行力）に関わる知識学習を行う。そして、これらの知識に基づいて、 PBL（Project Based Learning）を実施する。学習者たちは、イノベーション・ツールを活用した製造業ビジネスの企画設計等のテーマに沿って、プロジェクトの推進に取り組む。この中で、学習したイノベーションツールやコンピテンシーに関わる知識やスキルを積極的に活用し、知識の定着・習熟を目指す。

この教育プログラムによって、養成を目指すイノベーティブ産業人材は、モノづくり業界中小企業の衰退の原因である下請け体質からの脱却に貢献する人材であり、産業界の強いニーズに応える人材である。特に地域の中小企業と密な関係を構築している工業分野専門学校は、産業界の人材ニーズに応えるという意欲は高いと考える。さらに、本教育プログラムの想定する1年制の研究課程は、各専門学校にとって比較的設立しやすい。この2点から本プログラムの他校への普及・導入可能性は高いと考える。そこで本事業では「モノづくり産業におけるイノベーティブ産業人材養成プログラム」の開発を行い、工業分野専門学校への周知・普及を行うことで、モノづくり業界へのイノベーティブ産業人材養成の促進に取組む。これを通じて中小零細企業におけるイノベーションを促進し、その発展に寄与する。

2、スキル標準調査結果の反映

カリキュラム調査、適用事例調査に先立って、その調査領域を仮定義する上で、スキル標準における「能力ユニット」一覧（暫定版）を策定する。暫定版で調査実施を行う中、領域ごとの要求レベルの軽重やまたがり等を考慮して、能力細目および知識細目での定義に反映させ、スキル標準として取り纏める。

スキル標準の取り纏めに際し、各要件を定義する。

“イノベーションの定義”	“イノベーション・ツールの定義”
新しいアイディアから社会的意義のある新たな価値を創造し社会的に変化をもたらす自発的な人材・組織・社会の変革を意味する	最先端テクノロジーを駆使し社会的課題解決や企業の課題解決の為に新たなアイディアを創意工夫し、実現した事例（課題・解決手法・効果）までを含めてイノベーションツールと称する

「モノづくり産業に於けるイノベーティブ産業人材教育プログラム開発」における目指すべき人材像“（イノベーティブ産業人材像）は、
IoTやAIなどのイノベーション・ツールを駆使しながら、社会課題の中に潜んでいるニーズを拾い、それに答えるために情報収集、プロジェクト・チーム結成をし、推進することができる人材

“求められるスキル・力量 “は、
企業の実態情報をもとに「業績改善」「課題解決」「将来への挑戦」 の視点で社会動向の実態を見極め、具体的な組織改革と“大義名分”を持った新商品・新規事業の為のアイディア・手法・手段を構想化し実現できる。

【暫定版】（能力ユニット）

能力ユニット		※社会や企業の実態情報をもとに状態を分析・可視化し、
I	【生産性向上】	業務品質を保持した業務効率化と利益阻害要因の撲滅手法を熟知している
II	【計画利益】	チームのベクトル合わせと役割・目標の達成手法を熟知している
III	【課題発見】	社会の変化に気付き自社の位置付け・役割の変化とその影響及び対策を見極める事ができる
IV	【課題解決】	新規需要の創出及び新規商品・新規事業構想の策定と方針に沿って実現ができる
V	【イノベーション構想】	イノベーション・ツールを駆使しながら自社の強みを活かした次世代イノベーション構想を策定できる

(1)能力評価指標構成

モノづくり業界におけるイノベーティブ産業人材に求められる知識やスキルを企業調査の結果から整理して、さらに関連業界で定められた基準などを参考にしながら、能力評価指標を開発する。 本能力評価指標は、職業能力評価基準等の有力な先行事例に倣い、下図に示すイメージで構成する。まず当該人材の人材像を具体的に定義する。そこから職務項目を抽出し、各職務を遂行するために必要な能力を能力ユニットとして定義する。さらに、能力ユニットに属する能力細目・知識細目の洗い出しを行う。

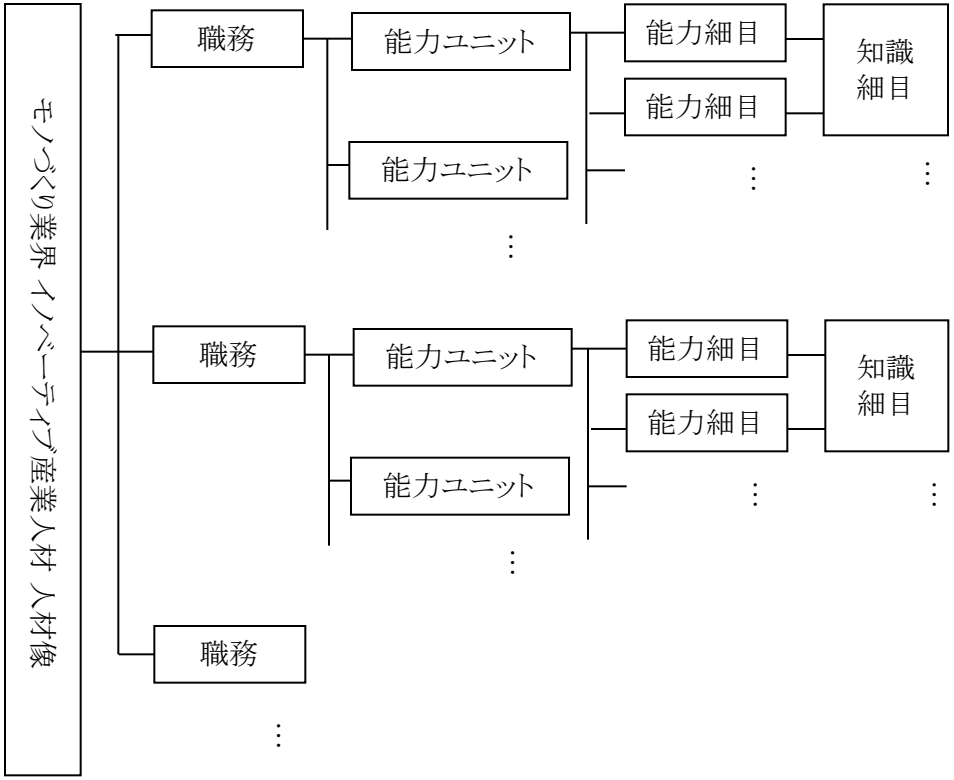


図4:能力評価指標の構成イメージ

(2)ノベーティブ産業人材・コンピテンシー対応表

イノベーションツール領域	コンピテンシー領域	PBL領域

コンピテンシー対応MAP		【Ⅰ】生産性向上	【Ⅱ】計画利益	【Ⅲ】課題発見	【Ⅳ】課題解決
		業務品質を保持した業務効率化と利益阻害要因の撲滅手法を学習	チームのベクトル合わせと役割・目標の達成手法を学習	社会の変化に気付き自社の位置付け・役割とその影響及び対策を学習	新規需要及び新規商品・新規事業構想の策定とその実現手法を学習
7	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－7】事故・不具合がもたらす影響	【Ⅱ－7】状況把握・目標管理	【Ⅲ－7】既存事業の顧客(業績)への影響・予測の見極め	【Ⅳ－7】責任者への報告、評価・方針に沿った推進・実現
	能力細目	○発生現場の影響 ○後工程・最善策の影響 ○全体への影響	○目標達成手法の策定・指示 ○状況把握・ギャップ対策 ○リスク対策	○市場・顧客への影響 ○業績への影響 ○業績見	○基本構想策定 ○稟議(要約版) ○責任者の評価・方針
	必要な知識	義	見える化・再発見	挑戦	改革
6	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－6】事故・不具合の発生源での再発防止策と徹底	【Ⅱ－6】人材管理	【Ⅲ－6】テーマから自社の位置・役割への変化・影響の見極め	【Ⅳ－6】中長期事業計画を見極め基本構想化
	能力細目	○発生原因業務 ○業務品質基準 ○再発防止策・指示徹底	○対応能力 ○キャリアパス ○最適配置	○自社への影響 ○商品への影響 ○技術への影響	○背景・目的 ○中長期的事業実現計画 ○事業収支の見極め
	必要な知識	礼	チームワーク	コラボレーション	リーダーシップ
5	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－5】事故・不具合の対策と影響の見極めと最善策	【Ⅱ－5】危機管理	【Ⅲ－5】自社の位置付け・役割の見極め(既存事業)	【Ⅳ－5】その最善な実現手法・予算の見極め
	能力細目	○発生現場の影響 ○後工程への影響 ○最善策の策定・指示	○注意事項の予測 ○予め見極め手法と対策 ○必要情報の入手	○自社の位置付け ○自社商品の位置付け ○技術の位置付け	○プロジェクト体制 ○プロジェクト推進計画 ○予算・投資効果
	必要な知識	智	チームワーク	理念・ビジョン	構想
4	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－4】事故・不具合の発生源の特定手法	【Ⅱ－4】業務管理	【Ⅲ－4】それらがビジネスに与える影響の見極め	【Ⅳ－4】ターゲット・市場規模・優位性の見極め
	能力細目	○発生原因の追究 ○根本原因の特定 ○再発防止手法の見極め	○業務のレベル ○配置人材のレベル ○レベルギャップ対策	○現状事業計画 ○影響時期の予測 ○影響内容の予測	○ターゲットの設定 ○市場規模の見極め ○優位性の見極め
	必要な知識	律	チームワーク	分析・発見	創造・発信
3	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－3】事故・不具合の実態調査と事象管理	【Ⅱ－3】リーダーの主要マネジメント	【Ⅲ－3】日本政府の方針・政策・業界への影響の見極め	【Ⅳ－3】既存技術＋αで世界的課題解決策の創造
	能力細目	○現象・事象 ○上司への報告・指示 ○対処策の策定・指示	○業務品質可視化・共有化 ○チームのベクトル合せ ○NEXTの育成	○政府の方針・指針 ○業界の動向 ○市場・顧客の動向	○世界的課題マップ ○日本の課題マップ ○既存技術＋αでの適応
	必要な知識	忠	価値創造	分析・発見	創造・発信
2	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－2】現場で起こる事故・不具合	【Ⅱ－2】リーダーの役割・責任	【Ⅲ－2】そのテーマ(課題)・動向の目的・状況の見極め	【Ⅳ－2】既存技術、既存技術＋αで新規需要の見極め
	能力細目	○ミス ○トラブル ○事故	○チームの位置付け ○チームの目標・役割・責任 ○チームの課題	○テーマの目的・概要 ○影響範・狙いの見極め ○事例・進捗状況	○＋α技術見極め ○既存技術で新規需要 ○既存技術＋αで新規需要
	必要な知識	信	管理・調整	分析・発見	創造・発信
1	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－1】事故・不具合がもたらす影響	【Ⅱ－1】状況把握・目標管理	【Ⅲ－1】世界的テーマ(課題)とその動向の見極め	【Ⅳ－1】既存事業の位置付け・役割を形成する技術の見極め
	能力細目	○業務の流れ ○位置付け ○役割・責任	○業務の位置付け ○業務の役割・責任 ○業務品質基準	○世界的動向・テーマ ○取組み状況の見極め ○ビジネスルールの変革	○世界的動向・テーマ ○取組み況の見極め ○ビジネスルールの変革
	必要な知識	仁	管理・調整	分析・発見	創造・発信

3、イノベーティブ産業人材・能力評価指標

(1)能力評価指標(1/3)

【目指すべき人材像】	IoTやAIなどのイノベーション・ツールを駆使しながら、社会課題の中に潜んでいるニーズを拾い、それに答えるために情報収集、プロジェクト・チーム結成をし、推進することができる人材

能力評価指標				
職務	I【生産性向上】	業務品質を保持した業務効率化と利益阻害要因の撲滅手法を熟知している		
I	【能力ユニット】		【能力細目】	【知識細目】
1	製造業の仕事(組織・業務)の流れを熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
2	現場で起こる事故・不具合を熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
3	事故・不具合の実態調査と事象管理を熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
4	事故・不具合の発生源の特定手法を熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
5	事故・不具合の対策と影響の見極めと最善策を熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
6	事故・不具合の発生源での再発防止策と徹底を熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
7	事故・不具合がもたらす影響とその重大さを熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識

能力評価指標				
職務	II【計画利益】	チームのベクトル合わせと役割・目標の達成手法を熟知している		
II	【能力ユニット】		【能力細目】	【知識細目】
1	業務品質基準を熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
2	リーダーの役割・責任を熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
3	リーダーの主要マネジメントを熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
4	業務管理を熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
5	危機管理を熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
6	人材管理を熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
7	状況把握・目標管理を熟知している		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識

3、イノベーティブ産業人材・能力評価指標

(1)能力評価指標(2/3)

【目指すべき人材像】	IoTやAIなどのイノベーション・ツールを駆使しながら、社会課題の中に潜んでいるニーズを拾い、それに答えるために情報収集、プロジェクト・チーム結成をし、推進することができる人材

能力評価指標				
職務	Ⅲ【課題発見】	社会の変化に気付き自社の位置付け・役割の変化とその影響及び対策を見極める事ができる		
Ⅲ	【能力ユニット】		【能力細目】	【知識細目】
1	世界的テーマ(課題)とその動向の見極めができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
2	そのテーマ(課題)・動向の目的・状況の見極めができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
3	日本政府の方針・政策・業界への影響の見極めができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
4	それらがビジネスに与える影響の見極めができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
5	自社の位置付け・役割の見極めができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
6	テーマから自社の位置・役割への変化・影響の見極めができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
7	既存事業の顧客(業績)への影響・予測の見極めができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識

能力評価指標				
職務	Ⅳ【課題解決】	新規需要の創出及び新規商品・新規事業構想の策定とその実現ができる		
Ⅳ	【能力ユニット】		【能力細目】	【知識細目】
1	既存事業の位置付け・役割を形成する技術の見極めができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
2	既存技術、既存技術＋αで新規需要の見極めができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
3	既存技術＋αで世界的課題解決策の創造ができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
4	ターゲット・市場規模・優位性の見極めができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
5	その最善な実現手法・予算の見極めができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
6	中長期事業計画を見極め基本構想化ができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
7	“イノベーション構想”の報告、評価・方針に沿った推進・実現ができる		①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識

3、イノベーティブ産業人材・能力評価指標

(1)能力評価指標(3/3)

【目指すべき人材像】	IoTやAIなどのイノベーション・ツールを駆使しながら、社会課題の中に潜んでいるニーズを拾い、 それに答えるために情報収集、プロジェクト・チーム結成をし、推進することができる人材

能力評価指標			
職務	V【イノベーション構想】	イノベーション・ツールを駆使しながら自社の強みを活かした次世代イノベーション構想を策定できる	
V	【能力ユニット】	【能力細目】	【知識細目】
1	本教科の目的と狙い	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
2	位置付けと役割・責任	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
3	次世代エンジニアリングイメージ	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
4	役割遂行の為に必要なスキル・力量	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
5	次世代型価値創造力(イノベーション力)	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
6	本質を理解することで経営課題の切り口が見える	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
7	本質を理解することで経営課題解決手法が解ける	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
8	是非、知っておきたい“WBS”の基礎知識	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
9	コンプライアンス(法令順守)対策	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
10	総合的課題と解決への挑戦	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
11	世界的ビジネスルールの変革(イメージ)	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
12	変革の視点・方向性を解く(変革の特徴)	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
13	イノベーション・ツール事例の活用・応用の研究	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
14	イノベーション・ツール　概略仕様計画	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
15	イノベーション・ツール基本計画イメージ	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
16	イノベーション構想(可能性)	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
17	“新規事業”実現プロジェクト計画	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識
18	イノベーション構想(基本構想書)	①企画・計画 ②実務の推進 ③評価・検証	必要な知識

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：生産性向上

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	基礎知識力	ユニット番号；Ｉ－1
	概要	製造業の仕事の流れ、組織の役割、担当業務の位置付け・役割・責任を熟知し業務を遂行する能力	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○製造業・自社に於ける業務の流れ、情報の流れ、モノの流れを理解している ○担当部署の位置付け・役割を理解し上下・左右の“漏れの無い・間違いの無い”情報連携を行っている ○部署と自分の役割・責任　を理解しリーダーから指示された業務を期日までに品質基準を遵守し業務を遂行できている
②実務の推進	○リーダーから指示された業務の目標達成計画を策定し相談・了解のもと業務遂行を図っている ○業務遂行の遂行に際しては仲間や関連部署との“漏れの無い情報”の入手・確認・連携を図っている ○業務連携に当たっては連携先の必要情報・状態を考慮し並行業務に支障を来たさない配慮ある連携を図っている ○業務成果物については過去のミス・トラブル事例をもとにチェックリストを作成・確認しリーダーに報告・提出ができている ○指示された業務の品質については業界基準・JIIS／ISO・社内標準等及びリーダーの指示事項を遵守している ○リーダーに対しては業務での必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている
③評価・検証	○案件が2件・3件の同時進行の時には積極的にリーダーの相談に乗り、仲間と最適人材配置・所掌分担を計画・相談の もと上手に各案件の仕様を満足させつつ円滑に業務遂行を主導・支援している ○業務遂行に際しては経験の浅い仲間との連携を綿密に行い指導・支援しながら実践を通したNEXTの育成を行っている ○他部署との連携の効果的タイミングとその入手・提供情報の内容・レベルを相談し、業務手法を工夫して 組織全体の工期短縮化を　行っている ○特殊な実践業務の成果・経験を通し部署の業務品質向上の為のマニュアル化・資料化を積極的に行っている ○業務完了後に部署の為にその積極的に業務での経験・重要項目の標準化（案）を作成しリーダーに報告・相談をしている

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：生産性向上

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	危機感知力	ユニット番号；Ｉ－２
	概要	現場で起こりえる様々な事故・不具合（ミス・トラブルなど）実績を熟知し常に注意を怠らない能力	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○業務全般・部署の所掌業務で起こったミス実績（事象・原因・対策・影響など）を体系的に理解し常に注意を払っている ○自社の商品や業務全般・部署の所掌業務で起こったトラブル・クレーム実績（事象・原因・対策・影響など）を体系的に理解し常に注意を払っている ○自社の商品や業務全般・部署の所掌業務で起こった事故実績（事象・原因・対策・影響など）を体系的に理解し常に注意を払っている
②実務の推進	○部署の所掌業務が原因で起こったミス・トラブル／クレーム・事故の実績を体系的に整備・可視化を図っている ○部署の業務遂行に際して未然防止策として事前・完了後にミス・トラブル／クレーム・事故実績の原因・対策を踏まえたチェックが行える様に業務別チェックリストの整備・可視化・標準化を図っている ○業務連携に際しても業務別チェックリストに“漏れの無い”情報連携の為にタイミング・連携先・連携内容・実施記録ができる様配慮がなされている ○業務成果物については必ずチェックリストを添付しリーダーに報告・提出ができている ○業務品質についてはリーダーと相談し業界基準・JIIS／ISO・社内標準等を遵守した業務標準化を図っている
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し部署の業務標準化に積極的に取り組んでいる ○部署の業務標準化に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○組織全体の品質を保持した工期短縮化の為の情報連携プロジェクトを編成し組織的標準化を積極的に主導している ○他部署での業務標準化の取組みに際してもその経験を活かし組織の品質向上の為に積極的に協力・支援をしている ○自身が担当した特殊な受注案件の業務完了後に実践経験に基づく業務手法（考え方・手順・手法など）とミス・トラブルの未然防止用のチェックリストを含んだ業務マニュアル（案）を部署の為に作成しリーダーに報告・相談をしている

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：生産性向上

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	現場対応力	ユニット番号；Ｉ－３
	概要	現場で起こり得る様々な事故・不具合（ミス・トラブル）の実態調査と事象管理を迅速・的確に行える能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○業務全般・部署の所掌業務で起こった事故・不具合（ミス・トラブル）に対する現象・事象の迅速・的確な実態把握（原因・対策・影響）に努めている ○その事故・不具合（ミスト・ラブル）実態把握情報（実態状況マルチ情報）を速やかにリーダーへ報告し最善の対応策の指示を仰げる様に努めている ○その為に事故・不具合（ミス・トラブル）実態把握情報（実態状況マルチ情報）に対する現場での対処策と他への影響を最小限に食い止める為の対応策をリーダーに具申・相談し部署・組織としての迅速且つ最善策の策定に努めている		
②実務の推進	○不具合発生時にリーダーの指示のもと速やかに現地に入り関係先リーダーと連携、“漏れの無い”情報収集を行っている ○収集情報をもとに自分の眼で状況確認し解説つき映像情報化を図っている ○確認状況をもとに関係先リーダーと事象・原因・影響・対策などについて相談・確認・共通認識化を図っている ○部署に戻り速やかにリーダーへ現地での状況情報及び関係先リーダーからの入手情報の的確な報告を行っている ○リーダーと事象・原因・対策などについて他への影響も考慮した最善策を相談し確定を図っている ○不具合対策を取り纏め関係先リーダーのもとへ速やかに対策について報告し支援依頼連携を行っている		
③評価・検証	○“どんなに気をつけても不具合は起こりえる”と認識し常に現地での状況調査の為の必需品の準備を行っている、 ○状況情報はできるだけ動画()を使い全体から発生源にフォーカスし事象・影響そして原因が確認を行っている ○状況映像には関係先リーダー及び自身が感じたことで端的に解説し報告・対策相談がし易い様に気をつけている ○現地では関係先のリーダー以外とは情報入手・連携・相談を行わない様に気をつけている ○リーダーと協力・相談し現状打開策と根本的対策の両面から影響も踏まえた最善策が打ち出せる様に気をつけている		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：生産性向上

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	原因追究力	ユニット番号；Ｉ－4
	概要	現場で起こり得る様々な事故・不具合（ミス・トラブル）の発生源の特定を迅速・的確に行える能力	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○部署の所掌業務で起こった事故・不具合（ミス・トラブル）の事象から発生原因の追究を迅速・的確に行っている ○部署の所掌業務で起こった事故・不具合（ミス・トラブル）の事象から発生原因と根本的原因の特定を迅速・的確に行っている ○部署の所掌業務で起こった事故・不具合（ミス・トラブル）の事象から根本的原因に対する再発防止策の見極めを迅速・的確に行っている
②実務の推進	○事故・不具合（ミス・トラブル）の事象から発生原因の追究に際してまず事故・不具合実績リストとの照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績リストの構成要件に沿って状況を記述・整理しながら原因の追究を行っている ○発生原因と根本的原因の特定の際には事故・不具合実績リストとの照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績リストの構成要件に沿って状況を記述・整理しながら発生原因と根本的原因の特定を行っている ○根本的原因に対する再発防止策を見極める際には事故・不具合実績リストとの照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績リストの構成要件に沿って状況を記述・整理しながら根本的原因に対する再発防止策の見極めを迅速・的確に行っている
③評価・検証	○部署の所掌業務（対象商品）に対する機能構造（仕組み）の設計体系化（設計手順・動作手順）を図っている ○過去の事故・不具合に対する原因・対策実績を整備しリスト化・可視化・共有化できる様に取り纏めている ○過去の事故・不具合に対する原因・対策実績を業務に活かせる様にトラブルシューテイングとして取り纏めている ○部署の業務品質向上の為のチェックリスト化・マニュアル化・資料化を積極的に行っている ○リーダーの許可のもと定期的に部員による業務品質向上のための勉強会を主導・推進している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：生産性向上

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	最善対応力	ユニット番号；Ｉ－5
	概要	現場で起こり得る様々な事故・不具合（ミス・トラブル）の対策と影響の見極めから最善策を講じる能力	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○事故・不具合（ミス・トラブル）発生現場に対する対策の影響の見極めを迅速・的確に行っている ○事故・不具合（ミス・トラブル）発生現場に対する対策が関係する全ての後工程への影響の見極めを迅速・的確に行っている ○事故・不具合（ミス・トラブル）発生現場に対する対策が関係する全ての後工程への影響の見極め結果をリーダーに具申・相談し根拠をもった最善策を導き出しリーダーの指示のもと関係先リーダーに報告・支援依頼を行っている
②実務の推進	○事故・不具合（ミス・トラブル）の発生原因・対策からその影響について事故・不具合実績データとの照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績データの構成要件に沿って状況を記述・整理しながら影響の見極めを行っている ○発生原因の最善策に対する全ての後工程への影響について事故・不具合実績データとの照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績データの構成要件に沿って状況を記述・整理しながら影響の見極めを行っている ○根本的原因に対する再発防止策を見極める際には事故・不具合実績データ（再発防止率）との照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績データの構成要件に沿って状況を記述・整理しながら根本的原因に対する再発防止策を取り纏め速やかにリーダーに具申・相談を行っている
③評価・検証	○部署の所掌業務（対象商品）に対する機能構造（仕組み）に対応した所掌・組織構成（役割）の体系化を図っている ○過去の事故・不具合に対する原因別にその対策の関係先（対策の役割分担・他）リスト化を図っている ○過去の事故・不具合に対する原因・対策実績別にその影響内容（関係先・範囲・工数・費用など）のデータ化を図っている ○過去の事故・不具合に対する原因・対策実績別に関係先連携内容（連携責任者・対策内容・期限・納付先・他）のリスト化を図っている ○リーダーの許可のもと定期的に部員による業務品質向上のための勉強会を主導・推進している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：生産性向上

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	再発防止力	ユニット番号；Ｉ－6
	概要	現場で起こり得る様々な事故・不具合の発生源での再発防止策を迅速・的確に講じる能力	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○事故・不具合（ミス・トラブル）発生の根本的原因となった対象業務とその改善点の見極めを迅速・的確に行っている ○事故・不具合（ミス・トラブル）発生の根本的原因となった対象業務の業務品質基準の見極めを迅速・的確に行っている ○事故・不具合（ミス・トラブル）発生の根本的原因となった対象業務の根拠をもった再発防止策を取り纏め リーダーに具申・相談・確定し、リーダーから部員全員に対し再発防止策の指示・徹底が図られている
②実務の推進	○事故・不具合（ミス・トラブル）の根本的原因・対策からその対象業務について事故・不具合実績データとの照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績データの構成要件に沿って状況を記述・整理しながら対象業務の見極めを行っている ○事故・不具合（ミス・トラブル）の根本的原因となった対象業務の品質基準のあり方について事故・不具合実績データ との照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績データの構成要件に沿って状況を記述・整理しながら業務品質基準のあり方に ついて見極めを行っている ○根本的原因に対する再発防止策を見極める際には事故・不具合実績データ（再発防止率）との照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績データの構成要件に沿って状況を記述・整理しながら根本的原因に対する 再発防止策（対象業務の品質基準及びチェックリスト）を取り纏め速やかにリーダーに具申・相談を行っている
③評価・検証	○部署の所掌業務（対象商品）に対する機能構造（仕組み）に対応した所掌・組織構成（役割）の体系化を図っている ○過去の事故・不具合に対する原因別にその対象業務と対策・内容のリスト化を図っている ○過去の事故・不具合に対する原因・対策実績別にその再発防止内容・再発率のデータ化を図っている ○過去の事故・不具合に対する原因・対策実績別に再発防止策について関係先連携のリスト化を図っている ○リーダーの許可のもと定期的に部員による業務品質向上のための勉強会を主導・推進している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：生産性向上

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	業務対応力	ユニット番号；Ｉ－７
	概要	現場で起こり得る様々な事故・不具合（ミス・トラブル）の影響の最小限化を迅速・的確に行える能力	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○事故・不具合（ミス・トラブル）発生現場での影響とその最小限化の見極めを迅速・的確に行っている ○事故・不具合（ミス・トラブル）発生現場から派生する後工程の各リーダーと連携・相談し後工程への影響とその最小限化の見極めを迅速・的確に行っている ○事故・不具合（ミス・トラブル）発生に対するその影響の最小限化・最善策と組織全体に及ぶ影響（信用・リコール・他）について迅速・的確に取り纏めリーダーに報告を行っている
②実務の推進	○事故・不具合（ミス・トラブル）発生現場での原因・対策からその影響について事故・不具合実績データとの照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績データの構成要件に沿って状況を記述・整理しながらその影響の見極めを行っている ○事故・不具合の発生現場から派生する後工程への影響について事故・不具合実績データ　との照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績データの構成要件に沿って状況を記述・整理しながら後工程の各リーダーと連携・相談し後工程への影響の見極めを行っている ○事故・不具合の発生に対するその影響の最小限化・最善策について事故・不具合実績データとの照合を行っている ○新規のケースの場合は不具合実績データの構成要件に沿って状況を記述・整理しながら影響の最小限化・最善策を取り纏め速やかにリーダーに具申・相談を行っている
③評価・検証	○部署の所掌業務（対象商品）に対する機能構造（仕組み）に対応した所掌・組織構成（役割）の体系化を図っている ○過去の事故・不具合に対する原因別に発生現場での対策とその影響についてデータ化を図っている ○過去の事故・不具合に対する原因別に発生現場での対策から派生する後工程への影響についてデータ化を図っている ○過去の事故・不具合に対する原因別に発生現場での対策から派生する組織全体に対する影響（信用・リコール・他）についてデータ化を図っている ○リーダーの許可のもと定期的に部員による業務品質向上のための勉強会を主導・推進している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：計画利益

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	品質徹底力	ユニット番号；Ⅱ－1
	概要	製造業における業務品質の重要性を理解し業務品質基準を策定できる能力	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○製造業に於ける業務の流れと業務の位置付けを理解している ○業務の位置付けに対応した果たすべき役割・責任を理解している ○その役割・責任を遂行する為の業務品質基準を理解している
②実務の推進	○リーダーから指示された業務の関連部署との情報連携内容を相談・了解のもと業務遂行を図っている ○業務遂行に際しては仲間や関連部署との“漏れの無い情報”の入手・確認・連携を図っている ○業務連携に当たっては連携先の必要情報・状態を考慮し並行業務に支障を来たさない配慮ある連携を図っている ○業務成果物については過去のミス・トラブル事例をもとにチェックリストを作成・確認しリーダーに報告・提出ができている ○指示された業務の品質については業界基準・JIIS／ISO・社内標準等及びリーダーの指示事項を遵守している ○リーダーに対しては業務での必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し部署の課題解決・業務標準化に積極的に取り組んでいる ○チームの業務標準化に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○チームの課題発見の為、定期的にミーテイングを行い具体的解決に向けた計画・実施を実践指導している ○チームワーク強化に向けチームの位置付け・役割・目標達成手法とその品質について定期的に実践指導している ○自身が担当した特殊な受注案件の業務完了後に実践経験に基づく業務手法（考え方・手順・手法など）とミス・トラブルの未然防止用のチェックリストを含んだ業務マニュアル（案）をチームの為に作成しリーダーに報告・相談をしている

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：計画利益

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	サポート力	ユニット番号；Ⅱ－2
	概要	リーダーの役割・責任を理解しサポートできる能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○チームの位置付け　からリーダーの果たすべき役割・責任を熟知している ○チームの目標・役割・責任を遂行する為の計画・指示・フォローのし方を熟知している ○チームの課題に気付き、その解決に向けた取り組み方を熟知している		
②実務の推進	○リーダーから指示された業務の関連部署との情報連携内容を相談・了解のもと業務遂行を図っている ○業務遂行に際しては仲間や関連部署との“漏れの無い情報”の入手・確認・連携を図っている ○業務連携に当たっては連携先の必要情報・状態を考慮し並行業務に支障を来たさない配慮ある連携を図っている ○業務成果物については過去のミス・トラブル事例をもとにチェックリストを作成・確認しリーダーに報告・提出ができている ○指示された業務の品質については業界基準・JIIS／ISO・社内標準等及びリーダーの指示事項を遵守している ○リーダーに対しては業務での必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し部署の課題解決・業務標準化に積極的に取り組んでいる ○チームの業務標準化に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○チームの課題発見の為、定期的にミーテイングを行い具体的解決に向けた計画・実施を実践指導している ○チームワーク強化に向けチームの位置付け・役割・目標達成手法とその品質について定期的に実践指導している ○自身が担当した特殊な受注案件の業務完了後に実践経験に基づく業務手法（考え方・手順・手法など）とミス・トラブルの未然防止用のチェックリストを含んだ業務マニュアル（案）をチームの為に作成しリーダーに報告・相談をしている		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：計画利益

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	グループ牽引力	ユニット番号；Ⅱ－3
	概要	リーダーの主要マネジメントを理解しチームのベクトル合わせを積極的に行える能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○チームの役割・業務の品質を徹底する為の業務品質基準の策定と可視化・共有化を熟知している ○チームの目標達成に向けたベクトル合せ手法を熟知している ○チームの為にも常にNEXTの育成の重要性とその育成手法を熟知している		
②実務の推進	○チームの位置付け・役割・責任している・目標をリーダーと相談・明確化・共有化している ○チームとしての役割・目標達成手法をリーダーと相談・明確化・共有化している ○チームとしての業務品質・品質基準についてリーダーと相談・明確化・共有化している ○チームとしての危機管理と対策についてリーダーと相談・明確化・共有化している ○チームとしても人材管理手法についてリーダーと相談・明確化・共有化している ○チームとしての業務管理手法についてリーダーと相談・明確化・共有化している		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し部署の課題解決・業務標準化に積極的に取り組んでいる ○チームの業務標準化に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○チームの課題発見の為、定期的にミーテイングを行い具体的解決に向けた計画・実施を実践指導している ○チームワーク強化に向けチームの位置付け・役割・目標達成手法とその品質について定期的に実践指導している ○自身が担当した特殊な受注案件の業務完了後に実践経験に基づく業務手法（考え方・手順・手法など）とミス・トラブルの未然防止用のチェックリストを含んだ業務マニュアル（案）をチームの為に作成しリーダーに報告・相談をしている		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：計画利益

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	業務品質維持力	ユニット番号；Ⅱ－4
	概要	業務品質を計画・管理できる能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○業務にレベルがあることを熟知している ○業務の役割分担に相当する人材配置にもレベルがあることを熟知している ○そのレベルにミス・マッチが生じない為のギャップ対策を熟知している		
②実務の推進	○業務手順・業務品質について標準化・基準化しチームで共有化運用している ○特にミス・トラブルについては、チェックリスト形式で業務成果物に付けて上司に報告するようにしている ○案件の種類に対応した業務標準化（手順・手法・情報・基準・所要時間・成果物）を積極的に推し進めている ○人材の最適配置に際しチーム全員の実務経験・実績・レベルをキャリアパスで育成・管理している ○チーム全体の現状配置とキャリアパスを考慮し、案件別に人材配置（役割分担）するが 必ずギャップが生じる事を考慮し、育成の意味を時間換算して指示し、品質を維持するようにしている		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し部署の課題解決・業務標準化に積極的に取り組んでいる ○チームの業務標準化に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○チームの課題発見の為、定期的にミーテイングを行い具体的解決に向けた計画・実施を実践指導している ○チームワーク強化に向けチームの位置付け・役割・目標達成手法とその品質について定期的に実践指導している ○自身が担当した特殊な受注案件の業務完了後に実践経験に基づく業務手法（考え方・手順・手法など）とミス・トラブル の未然防止用のチェックリストを含んだ業務マニュアル（案）をチームの為に作成しリーダーに報告・相談をしている		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：計画利益

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	リスク防止力	ユニット番号；Ⅱ－5
	概要	危機対策計画とその管理を行える能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○会社にとって何が危機なのかを理解し、起こさせない為の注意すべき事項を熟知している ○会社の危機を想定し、何をどう見極め、ケースを想定し、予めの対策・指示手法を熟知している ○その危機をいち早く察知する為の対応者と入手すべき情報のあり方を熟知している		
②実務の推進	○チームとしての危機管理手法についてリーダーと相談しその具体化がはかられている ○チームとしての危機状態を明確に定義し、それを起こさない為に必要な状況情報を見極めている ○もしも、起きてしまったらを想定し、その程度に応じ、具体的対策と指示連携先を決めている ○一方、その状況情報を入手しやすい、入手できる人材に状況情報の確認と連携を指示している ○いつでも危機情報が入ったら、状況を見極め、迅速で的確な対応が図れるように運用・管理している		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し部署の課題解決・業務標準化に積極的に取り組んでいる ○チームの業務標準化に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○チームの課題発見の為、定期的にミーテイングを行い具体的解決に向けた計画・実施を実践指導している ○チームワーク強化に向けチームの位置付け・役割・目標達成手法とその品質について定期的に実践指導している ○自身が担当した特殊な受注案件の業務完了後に実践経験に基づく業務手法（考え方・手順・手法など）とミス・トラブルの未然防止用のチェックリストを含んだ業務マニュアル（案）をチームの為に作成しリーダーに報告・相談をしている		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：計画利益

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	人材育成力	ユニット番号；Ⅱ－6
	概要	人材育成計画とその管理を行える能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○業務にもレベルがあり、対応する人材にもレベルがあることを熟知している ○その業務レベルと対応人材のミスマッチを避ける為の人材対応能力を計画的に育成するキャリアパスを熟知している ○チームとしての案件・業務に最適な人材配置（役割分担）手法を熟知している		
②実務の推進	○チームの業務対応実績をもとに担当の対応レベル・業務実績を見極め最適な人材配置計画を策定している ○案件ごとにリーダーに配置計画の相談を行い、了承のもとチーム全員に役割分担を行っている ○案件が並行して存在している際には業務レベルと担当レベルに十分な配慮を払って計画している ○役割分担の指示に際しては、過去のミス・トラブルに対するチェックリストを準備・徹底する様にしている ○業務進行時には各担当と綿密な情報連携のもとスムースな業務遂行が行える様に注意している ○リーダーに対しては定期的及び必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し部署の課題解決・業務標準化に積極的に取り組んでいる ○チームの業務標準化に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○チームの課題発見の為、定期的にミーテイングを行い具体的解決に向けた計画・実施を実践指導している ○チームワーク強化に向けチームの位置付け・役割・目標達成手法とその品質について定期的に実践指導している ○自身が担当した特殊な受注案件の業務完了後に実践経験に基づく業務手法（考え方・手順・手法など）とミス・トラブルの未然防止用のチェックリストを含んだ業務マニュアル（案）をチームの為に作成しリーダーに報告・相談をしている		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：計画利益

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	目標達成力	ユニット番号；Ⅱ－7
	概要	目標・役割達成に向けた計画・指示とその状況把握・目標管理を行える能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○チームとしての目標・役割を達成する為の計画策定手法とその指示手法を熟知している ○目標達成計画に対する状況把握及びそのギャップ対策手法を熟知している ○業務遂行に於けるリスクを予め想定し対策を講じる手法を熟知している		
②実務の推進	○目標達成計画に対するチームとしての進捗状況を仲間と綿密な連携のもと把握する様に努めている ○定期的及び都度、計画状況とそのギャップを見極めリーダーに報告・相談している ○ギャップ対策を計画しリーダーに相談し、チームにギャップ対策を指示・フォローしている ○業務遂行に際しては仲間や関連部署との“漏れの無い情報”の入手・確認・連携を図っている ○チームとしての業務品質については業界基準・JIIS／ISO・社内標準等及びリーダーの指示事項を徹底している ○リーダーに対しては定期的及び必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図っている		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し部署の課題解決・業務標準化に積極的に取り組んでいる ○チームの業務標準化に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○チームの課題発見の為、定期的にミーテイングを行い具体的解決に向けた計画・実施を実践指導している ○チームワーク強化に向けチームの位置付け・役割・目標達成手法とその品質について定期的に実践指導している ○自身が担当した特殊な受注案件の業務完了後に実践経験に基づく業務手法（考え方・手順・手法など）とミス・トラブルの未然防止用のチェックリストを含んだ業務マニュアル（案）をチームの為に作成しリーダーに報告・相談をしている		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題発見

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	変化洞察力	ユニット番号；Ⅲ－1
	概要	世界的テーマ（課題）とその動向の見極めができる	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○世界的動向・テーマの見極め手法を熟知している ○世界的課題解決に向けた取組み状況の見極め手法を熟知している ○世界的課題解決への取組みがビジネスルールの変革にもたらす影響を熟知している		
②実務の推進	○リーダーから指示された設定テーマに対し概略の目標達成計画を策定し相談・了解のもと業務遂行を図っている ○業務遂行に際してはチームや関連部署との“漏れの無い情報”の入手・確認・連携を図っている ○業務連携に当たっては連携先の必要情報・状態を考慮し配慮ある相互連携を図っている ○業務成果物については過去の最適な取組み事例をもとに作成・確認しリーダーに報告・提出ができている ○指示された業務の品質については実績事例及びリーダーの指示事項を遵守している ○リーダーに対しては業務での必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている		
③評価・検証	○課題解決に際しては積極的にリーダーの相談に乗り、チームで最適人材配置・所掌分担を計画・相談の もと上手に課題解決の為の条件を満足させつつ円滑に業務遂行を主導・支援している ○業務遂行に際しては経験の浅い仲間との連携を綿密に行い指導・支援しながら実践を通したNEXTの育成を行っている ○主要顧客の業界・市場の動向について最新の情報入手・見極めを行っている ○世界的な課題解決への取組み状況及び日本・業界での取組みについて見極めを行っている ○特殊な実践業務の成果・経験を通し部署の業務品質向上の為のマニュアル化・資料化を積極的に行っている ○業務完了後に部署の為にその積極的に業務での経験・重要項目の標準化（案）を作成しリーダーに報告・相談をしている		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題発見

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	環境分析力	ユニット番号；Ⅲ－２
	概要	そのテーマ（課題）・動向の目的・状況の見極めができる	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○設定テーマの目的・概要の見極め手法を熟知している ○設定テーマが与える影響範囲・狙いの見極め手法を熟知している ○設定テーマの類似事例の進捗状況からの最適な進め方の見極め手法を熟知している
②実務の推進	○リーダーから指示された設定テーマの概略の見極めから想定される影響範囲とその内容について 相談・了解のもと業務遂行を図っている ○業務遂行に際してはチームや関連部署との“漏れの無い情報”の入手・確認・連携を図っている ○業務連携に当たっては連携先の必要情報・状態を考慮し配慮ある相互連携を図っている ○業務成果物については過去の最適な取組み事例をもとに作成・確認しリーダーに報告・提出ができている ○指示された業務の品質については実績事例及びリーダーの指示事項を遵守している ○リーダーに対しては業務での必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている
③評価・検証	○課題解決に際しては積極的にリーダーの相談に乗り、チームで最適人材配置・所掌分担を計画・相談の もと上手に課題解決の為の条件を満足させつつ円滑に業務遂行を主導・支援している ○業務遂行に際しては経験の浅い仲間との連携を綿密に行い指導・支援しながら実践を通したNEXTの育成を行っている ○主要顧客の業界・市場の動向について最新の情報入手・見極めを行っている ○世界的な課題解決への取組み状況及び日本・業界での取組みについて見極めを行っている ○特殊な実践業務の成果・経験を通し部署の業務品質向上の為のマニュアル化・資料化を積極的に行っている ○業務完了後に部署の為にその積極的に業務での経験・重要項目の標準化（案）を作成しリーダーに報告・相談をしている

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題発見

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	動向分析力	ユニット番号；Ⅲ－３
	概要	日本政府の方針・政策・業界への影響の見極めができる	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○設定テーマに対する政府の方針・指針の与える影響について熟知している ○設定テーマに対する業界の動向とその影響について熟知している ○設定テーマに対する市場・顧客の動向とその影響について熟知している
②実務の推進	○リーダーから指示された設定テーマの概略の見極めから想定される影響範囲とその内容について 相談・了解のもと業務遂行を図っている ○次代に向けた最先端テクノロジーやイノベーションについて情報を入手・調査・分析している ○その動きが業界や自社及び顧客に与える影響について研究している ○いずれ訪れるであろう影響の見極め方とその対策のあり方を研究している ○リーダーに対しては定期的及び必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている
③評価・検証	○課題解決に際しては積極的にリーダーの相談に乗り、チームで最適人材配置・所掌分担を計画・相談の もと上手に課題解決の為の条件を満足させつつ円滑に業務遂行を主導・支援している ○業務遂行に際しては経験の浅い仲間との連携を綿密に行い指導・支援しながら実践を通したNEXTの育成を行っている ○主要顧客の業界・市場の動向について最新の情報入手・見極めを行っている ○世界的な課題解決への取組み状況及び日本・業界での取組みについて見極めを行っている ○特殊な実践業務の成果・経験を通し部署の業務品質向上の為のマニュアル化・資料化を積極的に行っている ○業務完了後に部署の為にその積極的に業務での経験・重要項目の標準化（案）を作成しリーダーに報告・相談をしている

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題発見

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	課題発見力	ユニット番号；Ⅲ－4
	概要	それらがビジネスに与える影響の見極めができる	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○設定テーマが現状事業計画に与える影響の見極めについて熟知している ○設定テーマが与える影響の時期の見極めについて熟知している ○設定テーマが与える影響内容の見極めについて熟知している		
②実務の推進	○リーダーから指示された設定テーマの概略の見極めから想定される影響範囲とその内容について 相談・了解のもと業務遂行を図っている ○次代に向けた最先端テクノロジーやイノベーションが現状のビジネスに与える影響を見極めている ○その影響の状態を見極め自社技術での対応策について研究している ○その影響をチャンスに変える為の対応策を研究している ○顧客にも自社にもチャンスに変える為の対応策を研究している ○リーダーに対しては定期的及び必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている		
③評価・検証	○課題解決に際しては積極的にリーダーの相談に乗り、チームで最適人材配置・所掌分担を計画・相談の もと上手に課題解決の為の条件を満足させつつ円滑に業務遂行を主導・支援している ○業務遂行に際しては経験の浅い仲間との連携を綿密に行い指導・支援しながら実践を通したNEXTの育成を行っている ○主要顧客の業界・市場の動向について最新の情報入手・見極めを行っている ○世界的な課題解決への取組み状況及び日本・業界での取組みについて見極めを行っている ○特殊な実践業務の成果・経験を通し部署の業務品質向上の為のマニュアル化・資料化を積極的に行っている ○業務完了後に部署の為にその積極的に業務での経験・重要項目の標準化（案）を作成しリーダーに報告・相談をしている		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題発見

（2）細目ユニット

<table>
<tr><td rowspan="2">能力ユニット</td><td>能力ユニット名</td><td>影響分析力</td><td>ユニット番号；Ⅲ－5</td></tr>
<tr><td>概要</td><td colspan="2">自社の位置付け・役割の見極めができる</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>能力細目</td><td colspan="3">職務遂行のための基準</td></tr>
<tr><td>①企画・計画</td><td colspan="3">○設定テーマから自社の位置付け・役割の見極めができる
○設定テーマから自社商品の位置付け・役割の見極めができる
○設定テーマから自社技術の位置付け・役割の見極めができる</td></tr>
<tr><td>②実務の推進</td><td colspan="3">○リーダーから指示された設定テーマの概略の見極めから想定される影響範囲とその内容について
相談・了解のもと業務遂行を図っている
○次代に向けた最先端テクノロジーやイノベーションが現状のビジネスに与える影響によって
自社の位置付け・役割がいつ、どの様に変革するのかを研究している
○その猶予と対応の為の自社の強みやリソースについて研究している
○既存技術や既存技術＋αでの新規需要・新商品・新規事業のチャンスに変える策を研究している
○リーダーに対しては定期的及び必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている</td></tr>
<tr><td>③評価・検証</td><td colspan="3">○課題解決に際しては積極的にリーダーの相談に乗り、チームで最適人材配置・所掌分担を計画・相談の
もと上手に課題解決の為の条件を満足させつつ円滑に業務遂行を主導・支援している
○業務遂行に際しては経験の浅い仲間との連携を綿密に行い指導・支援しながら実践を通したNEXTの育成を行っている
○主要顧客の業界・市場の動向について最新の情報入手・見極めを行っている
○世界的な課題解決への取組み状況及び日本・業界での取組みについて見極めを行っている
○特殊な実践業務の成果・経験を通し部署の業務品質向上の為のマニュアル化・資料化を積極的に行っている
○業務完了後に部署の為にその積極的に業務での経験・重要項目の標準化（案）を作成しリーダーに報告・相談をしている</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>必要な知識</td><td colspan="2">1、組織・体制・役割の基礎
2、コンプライアンス
・モノづくりのコンプライアンスの基礎
3、インシデントの基礎
4、不具合
・モノづくりの不具合内容の基礎
5、リコールの基礎</td><td>6、ビジネス環境の変化
・世界的課題と解決に向けた取組み情報
・世界の新技術・新商品情報
7、自社の業績（実態と見通し）
8、自社の課題（抱える悩み）
9、自社の将来（事業方針）
10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）</td></tr>
</table>

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題発見

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	変化対応力	ユニット番号；Ⅲ－6
	概要	テーマから自社の位置・役割への変化・影響の見極めができる	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○設定テーマから自社への影響を見極めることができる ○設定テーマから商品への影響を見極めることができる ○設定テーマから技術への影響を見極めることができる
②実務の推進	○リーダーから指示された設定テーマの概略の見極めから想定される影響範囲とその内容について 相談・了解のもと業務遂行を図っている ○次代に向けた最先端テクノロジーやイノベーションが現状のビジネスに与えるタイミングとその影響を チャンスに変える為の対策を研究している ○自社の位置付け・役割を自ら変革する為の対策を研究している ○まず、新規需要の創造、そして新商品・新規事業化の具体的構想を研究している ○その為の既存技術や既存技術＋αでの具体的新商品・新規事業の内容を研究している ○リーダーに対しては定期的及び必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている
③評価・検証	○課題解決に際しては積極的にリーダーの相談に乗り、チームで最適人材配置・所掌分担を計画・相談の もと上手に課題解決の為の条件を満足させつつ円滑に業務遂行を主導・支援している ○業務遂行に際しては経験の浅い仲間との連携を綿密に行い指導・支援しながら実践を通したNEXTの育成を行っている ○主要顧客の業界・市場の動向について最新の情報入手・見極めを行っている ○世界的な課題解決への取組み状況及び日本・業界での取組みについて見極めを行っている ○特殊な実践業務の成果・経験を通し部署の業務品質向上の為のマニュアル化・資料化を積極的に行っている ○業務完了後に部署の為にその積極的に業務での経験・重要項目の標準化（案）を作成しリーダーに報告・相談をしている

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題発見

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	顧客分析力	ユニット番号；Ⅲ－7
	概要	既存事業の顧客（業績）への影響・予測の見極めができる	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○設定テーマから市場・顧客への影響を見極めることができる ○設定テーマから業績への影響を見極めることができる ○設定テーマから既存事業の業績について見極めることができる
②実務の推進	○リーダーから指示された設定テーマの概略から位置付け・役割について見極め対応のあり方を相談・了解のもと業務遂行を図っている ○次代に向けた最先端テクノロジーやイノベーションが顧客にどの様な影響を与えるのかを研究している ○その顧客へ与える影響によって自社ビジネスにどのタイミングでどの様な影響がでるのかを研究している ○そして顧客にとっても、まず必要な新規需要の創出の為の既存技術＋αでの新商品を研究している ○リーダーに対しては業務での必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている
③評価・検証	○課題解決に際しては積極的にリーダーの相談に乗り、チームで最適人材配置・所掌分担を計画・相談のもと上手に課題解決の為の条件を満足させつつ円滑に業務遂行を主導・支援している ○業務遂行に際しては経験の浅い仲間との連携を綿密に行い指導・支援しながら実践を通したNEXTの育成を行っている ○主要顧客の業界・市場の動向について最新の情報入手・見極めを行っている ○世界的な課題解決への取組み状況及び日本・業界での取組みについて見極めを行っている ○特殊な実践業務の成果・経験を通し部署の業務品質向上の為のマニュアル化・資料化を積極的に行っている ○業務完了後に部署の為にその積極的に業務での経験・重要項目の標準化（案）を作成しリーダーに報告・相談をしている

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題解決

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	技術革新力	ユニット番号；Ⅳ－1
	概要	既存事業の位置付け・役割を形成する技術の見極めができる能力	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○自社商品の位置付け・役割と求められる発揮機能・性能の為の技術構成　を熟知している ○自社技術の強み・弱みを理解し、強みを活かし方を熟知している ○既存技術に＋α（目的達成に不可欠な機能）によって様々な課題解決へ応用範囲を広げられることを熟知している
②実務の推進	○リーダーから指示された課題解決に対し目標達成計画を策定し相談・了解のもと業務遂行を図っている ○業務遂行の遂行に際してはチームや関連部署との“漏れの無い情報”の入手・確認・連携を図っている ○業務連携に当たっては連携先の必要情報・状態を考慮し並行業務に支障を来たさない配慮ある連携を図っている ○業務成果物については過去のミス・トラブル事例をもとにチェックリストを作成・確認しリーダーに報告・提出ができている ○指示された業務の品質については業界基準・JIIS／ISO・社内標準等及びリーダーの指示事項を遵守している ○リーダーに対しては業務での必要なタイミングで業務状態の報告・相談のもと遂行が図られている
③評価・検証	○課題解決に際しては積極的にリーダーの相談に乗り、仲間と最適人材配置・所掌分担を計画・相談の もと上手に課題解決の為の条件を満足させつつ円滑に業務遂行を主導・支援している ○業務遂行に際しては経験の浅い仲間との連携を綿密に行い指導・支援しながら実践を通したNEXTの育成を行っている ○他部署との連携の効果的タイミングとその入手・提供情報の内容・レベルを相談し、業務手法を工夫して 組織全体の工期短縮化を　行っている ○特殊な実践業務の成果・経験を通し部署の業務品質向上の為のマニュアル化・資料化を積極的に行っている ○業務完了後に部署の為にその積極的に業務での経験・重要項目の標準化（案）を作成しリーダーに報告・相談をしている

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題解決

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	需要創造力	ユニット番号；Ⅳ－２
	概要	既存技術、既存技術＋αで新規需要の見極めができる能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○新規需要創出に向け既存技術に対し＋α技術の見極め方を熟知している ○既存技術で新規需要の創出のし方を熟知している ○既存技術＋αで新規需要の創出のし方を熟知している		
②実務の推進	○計画に際し、リーダーに目的・狙いとターゲットの概要を相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○次代に向けた最先端テクノロジーやイノベーションが既存技術に与える影響を分析している ○既存技術を活かし顧客商品の新規需要のあり方と自社の新規需要のあり方を創造している ○既存技術だけで機能が不足している時、内作か外部調達の見極めを行っている ○不足機能の設計仕様を計画し内作のケース及び外部調達のケースで実現化のコストを見極めを行っている ○計画・検討結果をリーダーに報告・相談しビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し既存技術のレベルアップ及び新規技術の創造に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題解決

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	技術創造力	ユニット番号；Ⅳ－３
	概要	既存技術＋αで世界的課題解決策の創造ができる能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○人類が取り組まねばならない世界的課題マップの策定手法を熟知している ○日本が直面している課題、日本政府の方針・指針から日本の課題マップの策定手法を熟知している ○これらの課題に対し既存技術＋αでの解決手法を創造する手法を熟知している		
②実務の推進	○計画に際し、リーダーに目的・狙いとターゲットの概要を相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○次代に向けた最先端テクノロジーやイノベーションがもたらす既存技術の変革の姿を研究している ○既存技術を活かし課題解決のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を創造している ○既存技術だけで機能が不足している時、内作か外部調達の見極めを行っている ○不足機能の設計仕様を計画し内作のケース及び外部調達のケースで実現化のコストを見極めを行っている ○計画・検討結果をリーダーに報告・相談しビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し既存技術のレベルアップ及び新規技術の創造に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題解決

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	戦略策定力	ユニット番号；Ⅳ－4
	概要	ターゲット・市場規模・優位性の見極めができる能力	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○既存技術＋αでの新商品・新規事業のターゲットの設定手法を熟知している ○既存技術＋αでの新商品・新規事業の市場規模の見極め手法を熟知している ○既存技術＋αでの新商品・新規事業の優位性の見極め手法を熟知している
②実務の推進	○計画に際し、リーダーに目的・狙いとターゲットの概要を相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○次代に向けた最先端テクノロジーやイノベーションに既存技術＋αで対応できる姿を分析している ○既存技術を活かし課題解決のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を創造している ○既存技術だけで機能が不足している時、内作か外部調達の見極めを行っている ○不足機能の設計仕様を計画し内作のケース及び外部調達のケースで実現化のコストを見極めを行っている ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の見極めを行っている ○計画・検討結果をリーダーに報告・相談しビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し既存技術のレベルアップ及び新規技術の創造に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、企画提案に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題解決

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	実現化力	ユニット番号；Ⅳ－5
	概要	その最善な実現手法・予算の見極めができる能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○リーダーの指示を得て本格構想策定の為のプロジェクト体制の編成手法を熟知している ○目的・目標の明確化とその達成に向けたプロジェクト推進計画の策定手法を熟知している ○構想の実現に際しての事業化計画の為の予算・投資効果の見極め手法を熟知している		
②実務の推進	○構想策定に際し、リーダーに推進状況の報告・相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題解決

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	構想化力	ユニット番号；Ⅳ－6
	概要	中長期事業計画を見極め基本構想化ができる能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○世界的・日本の課題を見極め“大義名分”を持った背景・目的の最適化手法を熟知している ○目的・目標を明確化しその実現に向けた中長期的事業実現計画手法を熟知している ○基本構想を実現させる為の事業収支計画手法を熟知している		
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：課題解決

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	プレゼン力	ユニット番号；Ⅳ－7
	概要	“イノベーション構想”の報告、評価・方針に沿った推進・実現ができる能力	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○役員に報告する為の基本構想策定手法を熟知している ○役員会で稟議（要約版）を通す為の手法を熟知している ○責任者の評価・方針に沿った実現手法を熟知している		
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－１
	概要	本教科の目的と狙い	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○背景・目的・狙いを熟知している ○「コンピテンシー・マネジメント」、「次世代エンジニアリング」の意味を熟知している ○求められる成果を熟知している
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－２
	概要	位置付けと役割・責任	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○求められる位置付け・役割を熟知している ○現状業績の意味を熟知している ○“淘汰されない価値想像力”の意味と具体力を熟知している		
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－３
	概要	次世代エンジニアリングイメージ	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○エンジニアリングの意味を熟知している ○次世代エンジニアリングの意味を熟知している ○次世代エンジニアリング手法の構図・構造を熟知している		
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－４
	概要	役割遂行の為に必要なスキル・力量	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○どんな意味・理解ができる人材を育成しようとしているかを熟知している ○どんなことができる人材を育成しようとしているかを熟知している ○役割遂行()の視点を熟知している		
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－５
	概要	次世代型価値創造力(イノベーション力)	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○次世代エンジニアリング手法を熟知している ○組織の、業績の、新規事業の為になる対策を解く手法を熟知している ○構想化及び実現手法を熟知している		
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－６
	概要	本質を理解することで経営課題の切り口が見える	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○経営課題を熟知している ○経営課題の原因と対策手法を熟知している ○リーダー・主要マネジメントの本質を熟知している
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－７
	概要	本質を理解することで経営課題解決手法が解ける	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○リーダー・主要マネジメントの本質を熟知している ○業務管理・人材管理・危機管理の本質を熟知している ○キャリアパスの形成手法を熟知している
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－８
	概要	是非、知っておきたい“WBS”の基礎知識	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○WBSの本質を熟知している ○WBSの構造・構成を熟知している ○WBSの整備手法を熟知している
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－９
	概要	コンプライアンス(法令順守)対策	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○コンプライアンスの本質を熟知している ○コンプライアンスの概要を熟知している ○コンプライアンス対策・徹底手法を熟知している
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－10
	概要	総合的課題と解決への挑戦	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○総合的課題(動向)と対策の視点形成を熟知している ○新商品・新規事業の課題設定手法を熟知している ○新商品・新規事業の可能性の見極め手法を熟知している
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－11
	概要	世界的ビジネスルールの変革(イメージ)	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○世界的課題と解決に向けた動きを熟知している ○世界の、日本の最先端技術たイノベーション実績を熟知している ○新規事業の為のテーマ／課題マップ作製手法を熟知している
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－12
	概要	変革の視点・方向性を解く（変革の特徴）	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○世界的課題解決への取り組みや最先端技術がビジネスに及ぼす影響を熟知している ○イノベーション実績からそのツールの働きや構成・構造の傾向を熟知している ○課題解決やツールによる課題解決手法を熟知している
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－13
	概要	イノベーション・ツール事例の活用・応用の研究	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○AI(ソフト、ソフト＋ハード)によるイノベーション・ツール事例を熟知している ○IOT・ロボット(AI＋IoT・ロボット)によるイノベーション・ツール事例を熟知している ○社会・企業・特殊な課題解決の為のイノベーション・ツール事例を熟知している
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－14
	概要	イノベーション・ツール　概略仕様計画	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○大義名分(解決テーマ)の本質を熟知している ○イノベーション・ツールの概略仕様構造を熟知している ○イノベーション・ツールの概略仕様計画手法を熟知している		
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－15
	概要	イノベーション・ツール基本計画イメージ	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○イノベーション・ツールの概略機能・性能計画手法を熟知している ○イノベーション・ツールの概略仕様要件・構造を熟知している ○イノベーション・ツール・システムの概略仕様設計手法を熟知している		
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；V－16
	概要	イノベーション構想(可能性)	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○イノベーション構想を構成する要件を熟知している ○構想のBefor-Afterの重要性を熟知している ○イノベーション構想の役割を熟知している		
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）	

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；Ｖ－17
	概要	“新規事業”実現プロジェクト計画	

能力細目	職務遂行のための基準
①企画・計画	○実現に向けた作業内容・プロセス計画手法を熟知している ○構想実現に向けた最適プロジェクト編成手法を熟知している ○プロジェクト推進・管理計画手法を熟知している
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している

必要な知識		
	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、自社の業績（実態と見通し） 8、自社の課題（抱える悩み） 9、自社の将来（事業方針） 10、自社の新技術・新商品（プロジェクトマネジメント研究開発）

能力評価指標・能力ユニット詳細、職務：PBLイノベーション構想

（2）細目ユニット

能力ユニット	能力ユニット名	PBLイノベーション構想	ユニット番号；V－18
	概要	イノベーション構想（基本構想書）	
能力細目	職務遂行のための基準		
①企画・計画	○正式な基本構想の構成要件を熟知している ○正式な基本構想のもつ意味・役割を熟知している ○正式な基本構想作成手法を熟知している		
②実務の推進	○基本構想策定に際し、リーダーの支援のもと担当役員に相談しアドバイスを頂きながら作業に着手している ○既存技術を活かした具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○既存技術＋α機能の具体的実現手法のあり方と自社の新技術・新規事業のあり方を具体化計画している ○事業化に際し自社の強みを活かした最適なターゲット・市場規模・優位性の具体的計画を行っている ○具体化計画をリーダーに報告・相談し最適なビジネスモデル及び事業計画の見極めを行っている ○報告に際しては事前に担当役員に報告し最終的なアドバイスを頂いている ○報告に際しては稟議に必須の要件集約版とバックデータ（正式・基本構想書）を準備している		
③評価・検証	○リーダーと相談・協力し新規技術・新商品の創造・実現に積極的に取り組んでいる ○本業務の遂行に際してはNEXT人材と一緒に取り組みその重要性・意義そして具体的手法を実践指導している ○実現に際しては組織全体での新技術・新規事業の為の連携プロジェクトを編成し積極的に主導している ○他部署との連携した取組みに際してもその経験を活かし組織間の綿密な情報連携に積極的に協力・支援をしている ○計画・検討結果を体系的に整備し、基本構想書の策定に向けた取り纏めを行いリーダーに報告・相談している ○策定した基本構想はプロジェクトが力を合わせ次代を切り開く為のものとし全員で報告会に臨める様手配している		
必要な知識	1、組織・体制・役割の基礎 2、コンプライアンス ・モノづくりのコンプライアンスの基礎 3、インシデントの基礎 4、不具合 ・モノづくりの不具合内容の基礎 5、リコールの基礎	6、ビジネス環境の変化 ・世界的課題と解決に向けた取組み情報 ・世界の新技術・新商品情報 7、イノベーション・ツール事例（AI,IoT、ロボット） 8、WBS,キャリアパスの形成 9、リーダー・主要マネジメント 10、次世代エンジニアリング	

4、能力評価手法・評価基準

（1） イノベーティブ産業人材・能力評価指標対応表 【 解説図;1 】

イノベーティブ産業人材に“求められる知識・能力”IoTやAIなどのイノベーションツールを駆使しながら社会課題の中に潜んでいるニーズを拾い、それに答えるために情報収集、プロジェクトチームを結成し、推進することができる

この“求められる知識・能力”を具体的にどの様に育成してゆくのかを、四象限・七区分の28の対応力（コンピテンシー）で取り纏めた能力評価指標対応表である。

（2） 個別・能力評価構造 【 解説図;2- a,2-b 】

「一年制の研究課程」において四半期毎に現状の個々の対応力の育成状況を「可」「不可」のレベルで判断し、個別の具体的指導に活かしてゆくためのものである。

（3） 評価手法・評価基準 【 解説図;3 】

本「一年制の研究課程」における最終的な能力評価は下記の二つの目標に到達する為のものである。

①PBL実習においてチームで研究し取り纏める“イノベーション構想”であり、これは「発表会」において関係者の公正な評価を受ける。

②「復習の時間」を活用し個人的に研究し取り纏める“イノベーション構想”であり、これも「発表会」において関係者の公正な評価を受ける。

最終的には上記の①、②の評価も含め、評価手法・評価基準に沿って総合的に評価され“判定”される。

（1） イノベーティブ産業人材・能力評価指標対応表

解説図;1

コンピテンシー対応MAP		【Ⅰ】生産性向上	【Ⅱ】計画利益	【Ⅲ】課題発見	【Ⅳ】課題解決
		業務品質を保持した業務効率化と利益阻害要因の撲滅手法を学習	チームのベクトル合わせと役割・目標の達成手法を学習	社会の変化に気付き自社の位置付け・役割とその影響及び対策を学習	新規需要及び新規商品・新規事業構想の策定とその実現手法を学習
7	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－7】事故・不具合がもたらす影響	【Ⅱ－7】状況把握・目標管理	【Ⅲ－7】既存事業の顧客（業績）への影響・予測の見極め	【Ⅳ－7】責任者への報告、評価・方針に沿った推進・実現
	能力細目	○発生現場の影響　○後工程・最善策の影響　○全体への影響	○目標達成手法の策定・指示 ○状況把握・ギャップ対策　○リスク対策	○市場・顧客への影響　○業績への影響　○業績見	○基本構想策定　○稟議（要約版）　○責任者の評価・方針
	必要な知識				
6	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－6】事故・不具合の発生源での再発防止策と徹底	【Ⅱ－6】人材管理	【Ⅲ－6】テーマから自社の位置・役割への変化・影響の見極め	【Ⅳ－6】中長期事業計画を見極め基本構想化
	能力細目	○発生原因業務　○業務品質基準 ○再発防止策・指示徹底	○対応能力　○キャリアパス ○最適配置	○自社への影響　○商品への影響 ○技術への影響	○背景・目的　○中長期的事業実現計画　○事業収支の見極め
	必要な知識				
5	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－5】事故・不具合の対策と影響の見極めと最善策	【Ⅱ－5】危機管理	【Ⅲ－5】自社の位置付け・役割の見極め（既存事業）	【Ⅳ－5】その最善な実現手法・予算の見極め
	能力細目	○発生現場の影響　○後工程への影響　○最善策の策定・指示	○注意事項の予測　○予め見極め手法と対策　○必要情報の入手	○自社の位置付け　○自社商品の位置付け　○技術の位置付け	○プロジェクト体制　○プロジェクト推進計画　○予算・投資効果
	必要な知識				
4	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－4】事故・不具合の発生源の特定手法	【Ⅱ－4】業務管理	【Ⅲ－4】それらがビジネスに与える影響の見極め	【Ⅳ－4】ターゲット・市場規模・優位性の見極め
	能力細目	○発生原因の追究　○根本原因の特定　○再発防止手法の見極め	○業務のレベル　○配置人材のレベル　○レベルギャップ対策	○現状事業計画　○影響時期の予測 ○影響内容の予測	○ターゲットの設定　○市場規模の見極め　○優位性の見極め
	必要な知識				
3	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－3】事故・不具合の実態調査と事象管理	【Ⅱ－3】リーダーの主要マネジメント	【Ⅲ－3】日本政府の方針・政策・業界への影響の見極め	【Ⅳ－3】既存技術＋αで世界的課題解決策の創造
	能力細目	○現象・事象　○上司への報告・指示　○対処策の策定・指示	○業務品質可視化・共有化　○チームのベクトル合せ　○NEXTの育成	○政府の方針・指針　○業界の動向 ○市場・顧客の動向	○世界的課題マップ　○日本の課題マップ　○既存技術＋αでの適応
	必要な知識				
2	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－2】現場で起こる事故・不具合	【Ⅱ－2】リーダーの役割・責任	【Ⅲ－2】そのテーマ（課題）・動向の目的・状況の見極め	【Ⅳ－2】既存技術、既存技術＋αで新規需要の見極め
	能力細目	○ミス　○トラブル　○事故	○チームの位置付け　○チームの目標・役割・責任　○チームの課題	○テーマの目的・概要　○影響範・狙いの見極め ○事例・進捗状況	○＋α技術見極め　○既存技術で新規需要　○既存技術＋αで新規需要
	必要な知識				
1	【ユニット番号】能力ユニット	【Ⅰ－1】事故・不具合がもたらす影響	【Ⅱ－1】状況把握・目標管理	【Ⅲ－1】世界的テーマ（課題）とその動向の見極め	【Ⅳ－1】既存事業の位置付け・役割を形成する技術の見極め
	能力細目	○業務の流れ　○位置付け ○役割・責任	○業務の位置付け　○業務の役割・責任　○業務品質基準	○世界的動向・テーマ　○取組み状況の見極め ○ビジネスルールの変革	○世界的動向・テーマ　○取組み況の見極め　○ビジネスルールの変革
	必要な知識				

（2） 個別・能力評価構造

解説図；2-a

【求められる能力・知識】	IoTやAIなどのイノベーション・ツールを駆使しながら、社会課題の中に潜んでいるニーズを拾い、それに答えるために情報収集、プロジェクト・チーム結成をし、推進することができる

可　不可

個別・能力評価構造					四半期ごとの指導要領			
職務			能力ユニット	概要	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
新規需要の創出及び新規商品・新規事業構想の策定とその実現ができる	課題解決 Ⅳ	7	プレゼン力	責任者への報告、評価・方針に沿った推進・実現ができる				
		6	構想化力	中長期事業計画を見極め基本構想化ができる				
		5	実現化力	その最善な実現手法・予算の見極めができる				
		4	戦略策定力	ターゲット・市場規模・優位性の見極めができる				
		3	技術創造力	既存技術＋αで世界的課題解決策の創造ができる				
		2	需要創造力	既存技術、既存技術＋αで新規需要の見極めができる				
		1	技術革新力	既存事業の位置付け・役割を形成する技術の見極めができる				
社会の変化に気付き自社の位置付け・役割の変化とその影響及び対策を見極める事ができる	課題発見 Ⅲ	7	顧客分析力	既存事業の顧客（業績）への影響・予測の見極めができる				
		6	変化対応力	テーマから自社の位置・役割への変化・影響の見極めができる				
		5	影響分析力	自社の位置付け・役割の見極めができる				
		4	課題発見力	それらがビジネスに与える影響の見極めができる				
		3	動向分析力	日本政府の方針・政策・業界への影響の見極めができる				
		2	環境分析力	そのテーマ（課題）・動向の目的・状況の見極めができる				
		1	変化洞察力	世界的テーマ（課題）とその動向の見極めができる				
チームのベクトル合わせと役割・目標の達成手法を熟知している（リーダー候補）	計画利益 Ⅱ	7	目標達成力	状況把握・目標管理を熟知している				
		6	人材育成力	人材管理を熟知している				
		5	リスク防止力	危機管理を熟知している				
		4	業務品質維持力	業務管理を熟知している				
		3	グループ牽引力	リーダーの主要マネジメントを熟知している				
		2	サポート力	リーダーの役割・責任を熟知している				
		1	品質徹底力	業務品質基準を熟知している				
業務品質を保持した業務効率化と利益阻害要因の撲滅手法を熟知している（やるべきことをしっかりやれる）	生産性 向上 Ⅰ	7	業務対応力	事故・不具合がもたらす影響とその重大さを熟知している				
		6	再発防止力	事故・不具合の発生源での再発防止策と徹底を熟知している				
		5	最善対応力	事故・不具合の対策と影響の見極めと最善策を熟知している				
		4	原因追究力	事故・不具合の発生源の特定手法を熟知している				
		3	現場対応力	事故・不具合の実態調査と事象管理を熟知している				
		2	危機感知力	現場で起こる事故・不具合を熟知している				
		1	基礎知識力	製造業の仕事（組織・業務）の流れを熟知している				

（3） 個別・能力評価構造

解説図;2-b

【求められる能力・知識】	IoTやAIなどのイノベーション・ツールを駆使しながら、社会課題の中に潜んでいるニーズを拾い、それに答えるために情報収集、プロジェクト・チーム結成をし、推進することができる

主として社会人の“学び直し”「リカレント教育」に最も重要な“イノベーション構想力”に求められる「スキル・力量」を具体的に解き明かし、どの様に育成してゆくかを“18の対応力(コンピテンシー)”で取り纏めた「能力評価対応表」である

可　不可

個別・能力評価構造				四半期ごとの指導要領			
職務		能力ユニット	概要	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
イノベーション構想(可能性) 「組織の」 「業績改善の」 「新規事業の」の為になる “次世代エンジニアリング”を展開できる	1	目的理解力	本教科の目的と狙いを理解できる				
	2	役割見極め力	位置付けと役割・責任を見極めることができる				
	3	エンジニアリング力	次世代エンジニアリングイメージを理解できる				
	4	要求機能分析力	役割遂行の為に必要なスキル・力量を見極めることができる				
	5	価値創造力	次世代型価値創造力(イノベーション力)が理解できる				
	6	課題分析力	本質を理解し経営課題の切り口を見極めることができる				
	7	組織課題解決力	本質を理解し経営課題解決手法を解くことができる				
	8	主要マネジメント力	“WBS”の基礎知識を理解し解くことができる				
	9	危機管理力	コンプライアンス(法令順守)対策を解くことができる				
	10	プロセス計画力	総合的課題と解決への挑戦イメージを解くことができる				
	11	社会課題分析力	世界的ビジネスルールの変革(イメージ)を解くことができる				
	12	視点形成力	変革の視点・方向性を解くことができる(変革の特徴)				
	13	最先端技術応用力	イノベーション・ツール事例の活用・応用ができる				
	14	次世代エンジニアリング力	イノベーション・ツール　概略仕様計画ができる				
	15	次世代創造力	イノベーション・ツール基本計画イメージが創造できる				
	16	イノベーション構想策定力	イノベーション構想(可能性)を取り纏めることができる				
	17	構想実現計画力	“新規事業”実現プロジェクト計画を策定できる				
	18	基本構想書策定力	イノベーション構想(基本構想書)が策定できる				

（3） 能力評価手法・評価基準

解説図;3

記;研究生に“求められる能力”に対応した能力評価手法・評価基準である

能力評価指標マップ

求められる能力（スキル・力量

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
7	7	7	7	7
6	6	6	6	6
5	5	5	5	5
4	4	4	4	4
3	3	3	3	3
2	2	2	2	2
1	1	1	1	1

評価手法（視点）

(1)授業
出席率
授業態度

(2)チーム活動
積極参加
チームワーク

3)レポート提出
期限厳守
内容評価

4)期末テスト(構想)
チーム構想評価
個人構想評価

能力評価基準

成績評価	点数	合否判定	割合	単位
秀	100～90	合格	上位10%以内	必要単位数【 】
優	89～80		上位30%以内	
良	79～70		上位70%以内	
可	69～60		上位60%以内	
不可	59～45	不合格		
	44～0			

能力評価手法（内容

評価区分		評価内容	採点	評価点配分
(1)	出席率			8点
	授業態度			8点
		平均点		
(2)	積極参加			7点
	チーム ワーク			7点
		平均点		
(3)	期限厳守			7点
	内容評価			7点
		平均点		
(4)	チーム構想評価			28点
	個人構想評価			28点
（イノベーション構想）		平均点		100点

能力評価			
	(1)	授業	
	(2)	チーム活動	
	(3)	レポート提出	
	(4)	期末テスト	

判定

合計点;

順位;

（3ー②） 期末テストの評価手法・評価基準

記;期末テストの実施要領【評価区分:4 に該当】
1、チーム研究成果発表会・・・1日で“7チームの構想”発表(約1h／チーム)
2、個人研究成果発表会 ・・・3日間で“約50人の構想”発表(約0．5h／チーム)

【発表会参加・評価者】
※発表会実施に際しては「参加者リスト」を作成する
◇専修学校関係者(校長、教頭、担任、他)
◇地元・コンソーシアム関係者
(工団連、役所、商工会議所、産業振興財団、他)
◇地元・企業経営者(インターンシップ協力企業、他)
◇産官学連携関係者(最先端技術協力企業、他)
◇事務局関係者、他

チーム構成:①
②
③
④
⑤
⑥
⑦

評価基準(内容)	
1点	少し劣る
2点	普通
3点	良い
4点	素晴らしい

	チーム研究成果
構想区分	チーム研究成果

氏名:

構想のタイトル:

研究成果”イノベーション構想”評価手法			評価基準(配点)				
評価項目		評価の視点	1点	2点	3点	4点	項目配点
1	テーマ設定力	狙いどころは良いか					4
2	論理展開力	解決に向け具体的にストリー化されているか					4
3	次世代型創造力	先端技術を上手に応用し課題解決ができているか					4
4	プレゼン力	きめられた時間内で要点をしっかり説明できているか					4
5	実現性	ここをこうできれば実現できるが具体化されているか					4
6	魅力・効果	地域のモノづくり企業として、更には地域産業にとっても価値があるものか					4
7	イノベーション構想力	Befor-Afterが明確になっているか					4
		(評価)					計:28点

注:チームの評価点は等しくチーム全員の評価とみなされる

評価者採点:

注:評価参加者の平均点を構想評価点とする

評価者平均点:

地域活性化(地域産業振興)へのアプローチ

地域の”モノづくり企業”の仕事がなくなれば人は減る、人口が減ればその分サービス業も減る、この悪循環が始まればその流れは止められない
地域の”モノづくり企業”の優秀な何社かが“魅力的新規事業”を展開し、地元の要素技術(企業)を活用できる魅力的プロジェクトの創造・実現が不可欠である。

実現支援構想候補: 可 否 → 検討結果: → 方針:

実施委員会委員

駒込和貴　公益財団法人国際人財開発機構　理事
児玉紀裕　学校法人 大原学園　事業部長
武田陽一郎　　学校法人 大原学園
石原明人　学校法人 田中育英会
飯田有登　学校法人 東京町田学園　理事・教頭
渡邉康祐　学校法人 滋慶文化学園　教務部長
久保全弘　愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科　責任者
田浦久美子　　国立大学法人 群馬大学　特任教授
千葉武彦　NDIソリューションズ株式会社　部長
池内信弘　日本プロジェクトソリューションズ株式会社　部長
増田洋一　株式会社第一コンピュータサービス　代表取締役
後藤貴徳　レッツスポーツ株式会社　代表取締役
齋藤桂三　有限会社ケッズグループ　会長
小湊宏之　川崎市工業団体連合会　ICT連携担当理事
小間田興二　　NPO法人ECML21　特別顧問

2019年度　文部科学省「 専修学校による地域産業中核的人材養成事業」委託事業

Society5.0等対応カリキュラムの開発・実証

「モノづくり産業におけるイノベーティブ産業人材養成プログラム開発事業」

能力評価指標・基本設計書
(改訂版)

2020年2月

公益財団法人 国際人財開発機構
東京都港区西新橋 1-20-3